

第1回 阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会での主な意見

主な意見 (網掛けは住民委員の発言)	県の回答など	推進計画 への記載
兵庫県が推進しようとしている流域対策、減災対策と、各自治体がそれぞれ計画を持って進めようとしている流域対策、減災対策の整合性について、どのように考えているのか。	この推進計画では、各自治体、県のこれまでの取り組みや既定計画から、総合治水に関する内容を取りまとめて記載している。特に目標貯留量は、県、市共同で策定した武庫川流域総合治水推進計画に記載されている内容をそのまま記載したものである。	
今後とも、洪水調節施設の継続検討をお願いしたい。特に上流域では、千苅ダムの治水活用が有効な治水対策であると認識している。	千苅ダムの治水活用については、放流ゲートの有無及び新設時の費用や、水道の安定供給と渇水時のバックアップといった課題の解決策が見出せない状況であり、引き続き検討をしていきたい。	p.5-8 に記載
浮きゴミによる目詰まりがポンプ施設の機能低下を招くことから、この協議会では、ポンプ施設の重要性とごみの発生源対策について住民意識の啓発ができればと考えている。	—	p.8-5 に記載
新規ダム建設等により治水対策を実施するものと認識していたが、ダムは考えずに総合治水へ計画を移行するという事か。それとも、新規ダム建設等についても、必要性・実現性の可能性の検討を継続するのか。 流域対策と減災対策を充実させる総合治水が一番だと思っている。	今後20年間で行う対策には新規ダム建設は入っていない。しかし、その次のステップでは、更なる治水安全度の向上が必要であり、その際には新規ダム建設等も検討材料となるため、必要性・実現可能性の検討を継続していく。	p.5-8 に記載